

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートセンターゆうひが丘		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 9日	～	令和 7年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 9	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 20日	～	令和 7年 1月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6	(回答者数)	6
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 12月 9日	～	令和 7年 12月 26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者) 9	(回答数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・公認心理師、言語聴覚士、理学療法士等の多職種が配置されており、それぞれの専門的知見を活かした情報提供や具体的な支援内容の提案を行っています。訪問先の先生方とは、お子さまの情報共有だけでなく、支援の方向性の統一や安心して過ごせる環境設定について、共に考え歩むパートナーとして意見交換や助言に努めています。	・訪問先施設が大切にされている教育・保育方針や、クラス運営の全体像を深く理解することに努めています。現場の先生方の思いや方針を尊重した上で、その環境の中で無理なく取り組める具体的な支援方法を提案し、お子さまが園や学校生活にスムーズに適応できるよう、足並みを揃えた連携を意識しています。	・お子さまの特性や発達段階をより多角的に分析し、専門性を深める研鑽を積んでまいります。それにより、訪問先の先生方が日々の関わりの中で活用できるような、より具体的で実効性の高い支援ツールの提案や訪問支援員の質の向上に努めます。
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・多職種による専門的な知見を有していますが、職員間で経験値や専門知識に差があることが課題です。今後は事例検討会や内部研修をさらに充実させ、どの職員が訪問しても一定以上の高い質で具体的な提案ができるよう、チーム全体のボトムアップを図る必要があります。	・訪問先となる学校や保育所等の環境は多岐にわたり、それぞれの集団の特性や活動内容に応じた柔軟な対応が求められます。個別のケースに対し、その場の状況を瞬時にアセスメントし、環境調整や具体的な関わり方を総合的に判断するには、知識の習得だけでなく一定の現場経験の蓄積が必要となること、職員間での対応力の差が生じている主な要因と考えています。	・質の高い支援を継続的に提供できるよう、訪問前後の検討会議を一層充実させ、助言の根拠や支援のポイントをチーム全体で共有する仕組みづくりを推進してまいります。 ・経験のある先輩職員との同行や訪問支援員としての学びや気付きのフィードバックを積極的に行い、共に学び合える環境を整えていきます。チーム一丸となって経験を分かち合い、専門性を高めることで、どの職員が訪問しても「相談してよかった」と安心していただける支援体制の構築を目指してまいります。
2			
3			